

平成28年度第2回川崎市産業振興協議会会議録

1 開催日時

平成29年3月21日（火）10時～12時

2 開催場所

川崎市産業振興会館11階第6会議室

3 出席者

(1) 委員（9名）

杉浦会長（慶應義塾大学名誉教授）、鹿住会長代行（専修大学商学部教授）、沈委員（日本女子大学人間社会学部教授）、安藤委員（川崎地区貨物自動車協同組合代表理事）、岩井委員（川崎商工会議所理事・事務局長）、大西委員（神奈川県情報サービス産業協会理事）、岡田委員（横浜銀行常務執行役員川崎支店長）、舘委員（川崎地域連合事務局長）、山根委員（川崎建設業協会副会長）

(2) 事務局

経済労働局長、産業政策部長、国際経済推進室長、産業振興部長、次世代産業推進室長、労働雇用部長、企画課長、企画課職員

4 議題（公開）

- (1) 川崎市中小企業活性化専門部会での施策検証の状況について
- (2) 平成29年度経済労働局主要事業について

5 傍聴者

なし

6 会議の内容

産業政策部長

(平成 28 年度第 2 回川崎市産業振興協議会開会を宣言)

(会議成立及び会議公開、傍聴人の有無(今回は無し)を確認)

(新委員を紹介)

(議事進行を杉浦会長に依頼)

杉浦会長

「議題 1 川崎市中小企業活性化専門部会での施策検証の状況」について、事務局から説明をお願いしたい。

企画課長

(資料に基づき説明)

杉浦会長

ここまでの説明に関して、委員の皆様から御意見、御質問があればお願いしたい。

鹿住会長代行

起業化総合支援事業について、先進的な取組だと注目しているが、国も起業化支援を進めている中で、川崎の取組が各自治体で行われている取組の一つになってしまうのではないかとも思う。今後の取組について教えていただきたい。

次世代産業推進室長

かわさき起業家オーディションについてはこれまで年 6 回開催してきており、累計 106 回を数えた。受賞後の起業家支援の取組が重要だと考え、今年度から個別集中支援を開始したところである。

鹿住会長代行

一口に起業家といっても、個別集中支援を行った技術系ベンチャーだけでなく、資料の事例で紹介された手編みバッグメーカーのようなケースもある。いろいろな起業家への対応をどのように行っているのか。

次世代産業推進室長

例えば、家庭にいる女性はオンラインを活用した仕事に対するニーズが高いようであるため、来年度は在宅ビジネスについても起業セミナーで取り上げたいと考えている。

鹿住会長代行

前回の会議でも女性の起業について提案した。ぜひ取り組んでいただきたい。

沈委員

コミュニティビジネスについて、海外での関心も高いが、海外からの視察者を受け入れたことはあるか。

産業政策部長

コミュニティビジネスに係る海外視察者を受け入れたケースはこれまで無いが、コミュニティにおけるごみ収集については、外国政府の視察を受け入れたことがある。

沈委員

以前、高齢者施設の視察に案内したことがある。

産業政策部長

高齢者施設への視察受入は本市も対応したことがある。日本の方法をそのまま海外で導入するのは難しいと聞いた。

岡田委員

知的財産戦略の推進についての専門部会での意見について。マッチング成立案件を金融機関が評価し、融資につながると良いとの意見があったとのことだが、金融機関でもいろいろなアドバイスを行うことができるので、ぜひ利用してもらいたい。

産業政策部長

中小企業と大企業等とのマッチングに、金融機関に入ってくださいとケースが増えている。良いマッチングを生み出したいと考えているので、ぜひ協力願いたい。

杉浦会長

中小企業の知財戦略は遅れている場合が多いものと思われる。知財をどう守るかが浸透していないのではないかと感じた。金融機関に意識啓蒙の旗振り役を担っていただければ、新しい次元が開けるのではないかと感じた。

専門部会にも所属されている委員からも、意見を伺いたい。

大西委員

専門部会にて施策の取組状況を聞き、市の取組はすごいと再実感した一方で、修正点も見られた。

自分自身も知らない事業が多々あり、今後活用したいと感じた。

岩井委員

検証結果を改善にいかにつなげていくかが重要だと思われる。

山根委員

一つ一つの事業を理解しながら意見を述べる難しさを感じた。

条例施行後の市の動きがスピーディーで、素晴らしいと思っている。

館委員

今回、農業分野については検証されなかったようだが、都市型農業の重要性も高まっており、また川崎では中学校給食がスタートするタイミングでもあるので、農業振興についても検証できるとよいのではないかと。

杉浦会長

昨年11月に開催された第2回専門部会では、水耕栽培の先進的システムを手がける(株)ルートレック・ネットワークスを視察した。同社のようなモデルは、全国展開だけでなく、海外にも展開できるのではないかと期待している。

産業政策部長

中小企業活性化条例施行に向けた検討段階においても、中小企業に農業従事者が含まれるか、議論になった。当然、農業従事者も中小企業に含まれているが、産業振興プランの重点事業には位置づけられなかったため、今年度の検証対象にはならなかった。

現在、本市では農業と他業種との新たな連携を推進しているところである。

杉浦会長

障害者雇用の促進とも結び付くのではないかと。

鹿住会長代行

生産後の流通も重要である。植物工場の場合、現在は市場を通さずに、生産者と消費者が個別に契約しているケースが多いと聞いている。この分野においてもマッチングが必要だろう。川崎では、農協を通じて販売するほどの生産量は上がらないのではないかと。

産業政策部長

流通については、市場機能の見直しと合わせて検討すべき、重要な課題だと考えている。

安藤委員

以前、車庫の敷地の高度利用を図る再開発プロジェクトが立ち上がったことがある。生産ノウハウを得て、流通先もうまく確保できれば、植物工場への転換を図ろうと考えたが、関係者間で意見が一致せず、結局できなかった。もう一步踏み出すためのアシストがあれば良かったと思う。

先日、ベトナム・バリアブントウ省を訪問した。日本の流通システムは優れており、海外進出を考えたこともあったが、中小企業が海外進出しようとしても、カウンターパートとなる金融機関が見つからない。全信連が近々取り組むという話を聞いたが、歯がゆい思いをしている。

沈委員

福祉産業の振興は素晴らしい取組。オリンピックに向けバリアフリーモデル地域を設けてみてはどうか。福祉機器の活用を進めたり、福祉と産業の密接な関係を作り出したりすることが出来るのではないかと。

次世代産業推進室長

本市全体で、パラリンピックを契機としたレガシーの形成を目指す「かわさきパラムーブメント」を進めている。

産業振興部長

パラリンピックに向けて、産業の視点を持ちながら観光分野を振興していこうと検討を進めている最中である。

杉浦会長

市には事業者としてのノウハウもある。コミュニティビジネス振興に関連してごみ収集の話題が出たが、日本のリサイクルシステムは世界的に見ても優れている。ブラジルでは中古車が売れないと聞いた。というのは、中古車に対応した部品が手に入らないからだそうである。つまり、部品市場の形成が必要ということだ。商社を活用した、行政ノウハウの海外展開について可能性を探ってみるのもよいかもかもしれない。

では、次の議題について事務局から説明をお願いしたい。

産業政策部長

(資料に基づき説明)

杉浦会長

ここまでの説明に関して、委員の皆様から御意見、御質問があればお願いしたい。

鹿住会長代行

ICT産業連携促進事業について、新事業の創出なのか、それとも生産性の向上なのか、目的を明確化させたほうが良い。ITの活用が即中小企業の実産性向上につながる訳ではない。中小企業の現場の状況をよく理解した社労士や中小企業診断士も加わったほうが良いのではないか。

ベンチャー支援について。産学交流・研究開発施設整備は素晴らしい計画だが、場所を作るだけでなく、そこで何をやるかが重要である。ソフト面の支援については、ある台湾企業からアクセラレーターのマッチング支援を受けたと聞いたことがある。支援者が誰かという点が重要。起業経験やハンズオン支援経験があるような支援者だと良い。

成長が期待できるベンチャー企業への個別・集中支援として、3者への支援に取り組んでいるが、行政が支援するとなると、ベンチャー企業の支援が税収増加につながったといったようなアウトカム指標が求められるだろう。

女性再就職支援として、在宅ワークセミナーを開催したとのことだが、居宅外短時間就労希望者もおり、ターゲットは必ずしも在宅ワークだけではないのではないか。また、在宅就業だと保育園への入園が認められないケースも多いと聞く。基礎自治体として、齟齬のないように調整願いたい。

沈委員

インバウンド戦略の効果的な取組の一つとして、外国人向け「(仮称)川崎寄り道ツアー」を開発することだが、一口に外国人と言っても、文化的背景も性別・年代もかなり異なる。具体的なターゲットを絞らないとうまくいかないのではないか。

次世代産業推進室長

御指摘いただいたアクセラレーターや成果については、我々もまさに課題だと思っている。引き続き御支援・御指導いただきたい。

労働雇用部長

女性再就職支援について、平成26年度はキャリアカウンセラーの育成に取り組んだが、ニーズが高かったことから、平成27年度・28年度は在宅ワーカーを取り上げた。起業家オーディション受賞者に、スキルの高い女性の活用に取り組む企業があり、同社との展開を考えているところである。

鹿住会長代行

民間事業者による女性専用の託児付きシェアードオフィスも増えてきている。

産業振興部長

ICT産業連携促進事業について、ものづくり企業はICTの活用方法が分からず、ICT企業はものづくり企業のニーズが分からないことが多い。そのため、コーディネーターが企業を訪問し、双方のニーズを聞き取っているところである。

インバウンド対応について、今年度はインフルエンサー（影響力の強い情報発信者）を活用した情報発信に取り組んだが、情報発信先が若者に偏りがちだったため、今後はターゲット設定を念頭に置いて進めていきたい。

杉浦会長

イギリスのEU離脱により、ロンドンがこれまで同様に金融都市でいられるかが注目されているが、ロンドンが担ってきた機能は、ヨーロッパではなく、ニューヨークが取って行くのではないかとされている。

アジア進出にあたり、インフラや人材が最も集積しているシンガポールを司令塔とするといったケースもありうるのではないかとされている。シンガポールはオーストラリアも含めたアジア太平洋の拠点になりうる。金融などのインフラが整っている拠点を活用するには、メガバンクの戦略に着目することも必要である。

議題は以上となる。最後に局長から一言お願いしたい。

経済労働局長

長時間の議論に感謝申し上げます。目的明確化の重要性についてもご指摘いただき、ありがたく思っている。また、海外展開についても議論していただいたが、実は今ちょうど国際戦略に関する庁内会議に出席してきたところで、海外展開や国際貢献、インバウンド、どれももしっかりやっていかないといけないと感じた。

専門部会でも市事業のPR不足について指摘を受けた。必要な人に必要な情報が届くよう、取組を進めていきたいと考えている。今後も御支援いただきたい。

杉浦会長

本日の協議会はこれで閉会とする。事務局から連絡があればお願いしたい。

産業政策部長

鹿住会長代行から御案内をいただいた。

鹿住会長代行

新聞にも取り上げられたが、本学と京急ストアが共同開発したお弁当を紹介したい。これは、一般社団法人神奈川経済同友会主導の産学チャレンジプログラムにおいて、京急ストアが提示したテーマの中からゼミ生が考案したものである。学生は実際に京急沿線で調査やアンケートなどを行い、カロリー・塩分も控えめなお弁当に仕上げたので、ぜひ御賞味いただきたい。

産業政策部長

本市からもいくつか紹介したい。

まず1点目は、先日東京TYフィナンシャルグループと締結した「産業振興に関する包括連携協定」について。本協定により、中小建設業者の資金繰り支援として、本市から公共工事を受注・施工している建設業者について、「公共工事代金債権信託（コントラスト）」の利用が可能となった。

2点目は、今週23日に開催予定のウェルフェアイノベーションフォーラムについて。先ほど福祉産業振興についても議論いただいたが、取組やかわさき基準認証製品を紹介予定なので、都合が付けばぜひ来場いただきたい。

3点目は、今週24日の都市農業活性化連携フォーラムについて。農業と他業種との連携についても話題が上がったが、今回は先ほど紹介した㈱ルートレック・ネットワークスの取組や、障がい者雇用創出について、モデル事業の成果発表を行う予定である。こちらも都合が付けばぜひ御参加いただきたい。

次回協議会は8月頃を予定している。また案内を差し上げるので、その際は御出席をお願いしたい。

以上